THE GLOBE PROGRAM FOR SDGs

SDGsのための GLOBEプログラム

理論編

# T02

# GLOBE for SDGsの前に

## GLOBEプログラムと SDGs達成のためのGLOBEプログラム

文部科学省のモデル指定校事業として1995年に始まったGLOBEプログラムは2020年度で終了し、21年度からは、同じく文部科学省のSDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業の一つとして、「SDGs達成のためのGLOBEプログラム（GLOBE for SDGs）」に移行しました。

### GLOBEプログラム

全世界の幼児・児童・生徒、教師及び科学者が相互に協力しながら、全世界の個々人の環境に関する意識の啓発、地球に関する科学的理解の増進、理数教育においてより高い水準へ到達するための手助けとなることを目的として環境観測や情報交換をおこなう、学校を基礎とした国際的な環境教育のプログラムです。（文部科学省）

### SDGs達成のためのGLOBEプログラム

米国発GLOBEプログラムをベースとしながら、日本の自然環境ならびに生物文化の多様性や生活文化などの地域特性を踏まえ、地域社会の課題解決を目標に据えた観測・調査活動を学校の特徴を活かして行うプログラムです。

## ESDGs：環境教育の今日的段階

現代環境教育の世界標準は「持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development：ESD）です1)。2015年に国連で持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）が2030年までの国際開発目標として設定され、2020年にSDGs達成のための「行動の10年」がスタートしました。これと連動して、ユネスコと国連の総会で、2020年から2030年までのESDの新たな国際的実施枠組み「持続可能な開発のための教育：SDGs実現に向けて（ESD for 2030）」が採択・承認され、2020年にESD for 2030が始まりました。ESD for 2030の目標は、ESDを強化し、SDGsの17の目標すべての実現への貢献を通じて、より公正で持続可能な世界の構築を目指すことです2)。ESDは、今日、「持続可能な開発目標のための教育（Education for Sustainable Development Goals：ESDGs）の段階にあります3)。

## ESDの根本課題

SDGsの達成に向けて、現在、社会のあらゆる分野でさまざまなESD活動が進められ、百花斉放の様相を呈しています。

ここで、一つ重要なことを確認しておきましょう。

国際協調でESDを推進するために設定された「国連ESDの10年」（2005年から2014年）の主導機関であったユネスコは、そのウェブサイトに次のような英文を掲載していました。

Education for sustainable development (ESD) is not a particular programme or project, but is rather an umbrella for many forms of education that already exist, and new ones that remain to be created.

ESDの推進に当たっては、一つ一つの具体的な活動

が大切なことは言うまでもありませんが、しかしそれに留まらずより重要なことは、ESDは既存の、あるいはこれから創出される種々様々な教育を「包括するもの（umbrella)」だという認識です。ここから、個別のESD活動を考えて実施するだけでなく、「より公正で持続可能な世界の構築を目指す」＜ESDという教育＞についてじっくりと考えることが必要であり肝要だと言えるでしょう。

では、「じっくり考える」とは何をすればいいのでしょうか？

ESDに関する2つの公的文書の中の英文に注目します。第一は、ESDの歴史の起点となった国連環境開発会議（1992年）で採択された『アジェンダ21』（21世紀の人間社会の行動計画）の36章「教育、意識啓発、研修の促進」です。その基本となる考えは、「持続可能な開発に向けて教育の向きを変えること（Reorienting education towards sustainable development)」です。

第二は、先にあげたユネスコの英文に続く次の文章です。

ESD promotes e orts to rethink educational programmes and systems (both methods and contents) that currently support unsustainable societies.

ESDは、持続不可能な社会を現在、支えている教育のプログラムやシステム（方法と内容の両方）を考え直そうという努力を促進する。

2つの英文の要点を取り出すと、下記2点になります。

①教育の向きを変えること

②教育を考え直すこと

「より公正で持続可能な世界の構築」が世界共通の目標とされる現在、持続不可能な社会を支えてきたこれまでの教育の向きを変えるために、その教育がどのような教育であったかをよく考えて検討し、これからの教育が進むべき方向を見極めて向きを変えなければなりません。だとするならば、〈ESDという教育〉について「じっくりと考える」とは、これまでの教育を考え直し、そしてその向きを変えることと言えます。これがESDの根本課題です。

## ESDの根本課題に取り組む

では、このESDの根本課題にどのように取り組めばいいでしょうか？

環境教育あるいはESDの担い手はもちろんのこと、教育に携わる一人一人が自分を棚上げせずに、「この私」の教育を考え直し、その向きを変えることが今、求められていることであり、極めて重要なことではないでしょうか。

さらに掘り下げて言うならば、「この私」の教育を考え直すこととは、「この私」がどのような教育によってどのような人間に形作られてきたか、また自らを形作ろうとしてきたか。あるいは他者をどのように形作ってきたかなどを考え直すことだと言えるでしょう。だとするならば、ESDの根本課題とは、実は、一人一人が「この私」を考え直し、その向きを変えることなのです。

このことを、ポール・ゴーギャンの絵画のタイトル「我々はどこから来たのか　我々は何者か　我々はどこへ行くのか」に倣って言い換えてみましょう。

> ESDの根本課題とは、私はどこから来たのか？私は何者か？私はどこへ行くのか？という問いに一人一人が応答することである。

**関連資料**

1「日本の環境教育のダイナミズム」と『ユネスコスクールで目指す SDGs 持続可能な開発のための教育』パンフレット 9 ページ「ESD と世界的な動き」を参照ください。https://www.jeef.or.jp/wp-content/uploads/2016/12/440 dc9f2b8c871c267fcab3bc79e01. pdf（2023 年 2 月 26 日アクセス）
（開かない場合はこちらからリンクしてください。https://www2.u-gakugei.ac.jp/~globe/PDF/dynamism.pdf）
https://www.mext.go.jp/esd-jpnatcom/about/pdf/pamphlet_01.pdf（2023 年 2 月 26 日アクセス）

2「ESD for 2030」については、環境省作成の「『持続可能な開発のための教育：SDGs実現に向けて（ESD for 2030)』Education for Sustainable Development: Towards achieving the SDGs (ESD for 2030)概要」を参照ください。
https://www.env.go.jp/content/900496280.pdf（2023年2月26日アクセス）

3 2017年にユネスコから『Education for Sustainable Development Goals：Learning goals』（英語版）が発行され、岡山大学大学院教育学研究科ESD協働推進室とACCU（ユネスコ・アジア文化センター）の翻訳で、2020年に日本語版が出版されました。